

「大逆事件」100年シンポ

幸徳秋水らを弁護した今村力三郎 「思想の断罪に憤り」



▲シンポジウムで

明治天皇暗殺を計画したとして、社会主義者、無政府主義者が一斉弾圧された大逆事件の発生、逮捕から100年。同事件を再検証するシンポジウム「大逆事件と知識人」(主催・専修大学今村法律研究室)が2月6日、神田キャンパスで120人が参加して開催された。同事件の弁護人を務めた今村力三郎(1866〜1954)の思想がクローズアップされた。大逆事件は、幸徳秋水らとすると権力側の動向に26人が大逆罪で起訴され、大逆院の非公開の裁判で24人に死刑が言い渡された。今村は足尾鉾毒事件で田中正造を介して秋水と知り合い、国選弁護人と...



今村力三郎

今村は戦後間もなく母校である専修大学の総長を務め、大学の再建に奔走したが、司会の大谷正教授は、その晩年の様子を紹介した。講演はほかに「大逆事件と知識人―無罪の構図」などを著した日本文芸家協会会員・中村文雄氏、「国際啄木学会」理事の伊藤和則氏、「幸徳秋水を顕彰する会」会長北澤保氏が行った。伊藤氏は「大逆事件に連座して無期懲役となり、仮釈放後に再審の申し立てをし、1975年まで生き抜いた同事件の最後の生き証人」である坂本清馬に会い、話を聞いた模様やその時の肉声を披露した。講演後のシンポジウムでは、4氏が会場からのたくさんの質問に答えた。専修大学今村法律研究室は今村元総長の業績を顕彰し、1949年に発足した専修大学の研究機関。大逆事件をはじめ、今村が担当した訴訟記録の公開を行っている。

福原記念英米文学研究助成基金 出版助成部門賞を受賞

経営学部・成田雅彦教授



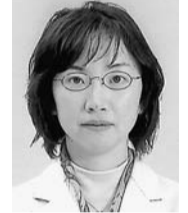
成田雅彦

成田雅彦経営学部教授「インと孤児の精神史―アメリカン・ルネサンスの影をめぐって」が福原記念英米文学研究助成基金出版助成部門賞(通称・福原賞)を受賞した。同基金は、故福原麟太郎東京教育大学名誉教授の業績を記念して、若手中堅の英米文学研究を助成し、研究の振興発展に寄与することを目的に設立されたもので出版助成部門賞と研究助成部門賞がある。論文は福原賞の助成作品として出版される予定となっている。

相馬学術奨励基金海外研究員



相馬学術奨励基金海外研究員



相馬学術奨励基金海外研究員

本学出身の若手研究者の海外派遣などを目的に設けられている相馬学術奨励基金による海外研究員に選ばれた福原康司経営学部准教授(09年度)と菅野真由美と樋口博美文学部准教授(10年度)は同基金にこのほど辞令が交付された。福原准教授は3月25日から1年間、オーストラリアのシドニー大学、ウロンゴン大学で「ミッドル・マネジメントに関する研究」を行う。樋口准教授は4月1日から1年間、アイルランドのダブリン大学で「アイルランドにおける工芸の現在と技能の伝承」をテーマに研究する。

高大連携協議会開く 「キャリア教育」で意見交換

2月6日、生田キャンパスで高大連携協議会が開かれ、協定校と本学合わせて35人の教員が「高大で考えるキャリア教育」をテーマに意見交換を行った。写真。



砂原由和座長(ネットワーク情報学部教授)のあいさつの後「職業と仕事」2007年・専修大学出版企画委員会の編著者である大庭健文学部教授(同委員会委員長・図書館長)が、大学におけるキャリア教育の現状と課題を報告。県立神奈川総合高校と都立天田桜台高校から、特色あるキャリア教育の報告がなされた。本学の高大連携は03年度からスタート。高大連携聴講生の受け入れ、1日体験入学、教員志望の学生を派遣する教科研修生など幅広い交流を行っている。

高大連携 専大生の体験を高校生に

3月19日、23日に行われた1・2年生対象の「国際交流サークルSIA(代表・鈴木俊良さん)経済2」のメンバー13人が総合的な学習の時間「産業社会と人間」の中で、フェルトリードやカンボジアの地雷とごみ山などをテーマに特別授業を行った。写真。



2月9日、国際交流サークルSIA(代表・鈴木俊良さん)経済2のメンバー13人が総合的な学習の時間「産業社会と人間」の中で、フェルトリードやカンボジアの地雷とごみ山などをテーマに特別授業を行った。写真。

KS「コミュニティ・ビジネス・アカデミー」第3期 26人が修了

地域活性化の実践へ

第4期募集説明会を開催

同アカデミーでの学びを地域社会の活性化に生かすグループもあり、住みよい街づくりに向けて

文部科学省「社会人の推進プログラム」受託事業「KS(川崎・専修)コミュニティ・ビジネス・アカデミー」第3期の修了式が2月15日、サテライトキャンパスで行われた。写真。今期の修了者は26人。NPO法人の監事に就任した人や、同期でNPO法人の申請に向けた活動をしてい



KS「コミュニティ・ビジネス・アカデミー」第3期修了生と関係者ら

多彩な講義と実習で街づくりや高齢者支援、子育て支援など身近な課題を解決するコミュニティ・ビジネスの専門家育成する同アカデミーで

同アカデミーでの学びを地域社会の活性化に生かすグループもあり、住みよい街づくりに向けて

同アカデミーは、環境問題や高齢化問題などの社会的ニーズに応える革新的、先導的な影響力をもつ計画を公募する日本計画行政学会計画賞を受賞した。写真。2月26日、東京・表参道の青山オパールビルで行われた



日本計画行政学会計画賞を受賞

多摩区3大学共同シンポ

地域の共同財産「地図」テーマに

熊木文学部教授が講演

地図情報」を講演した。

多摩区3大学(本学・明治大学・日本女子大学)連携事業「川崎市教育委員会連携事業として1月23日、共同シンポジウム「地域の共有財産としての『地図』―未来へのロードマップ」が日本院博士課程に学ぶ張夏玉さん(韓国)、マーケティング学科2年次のタオワン・キティチャイさん(タイ)ら4人は、自本女子大学で開かれた。学校教育の現場で社会科教育や安全対策の面で「地図」の必要性が高まっている中、本学からは熊木文学部教授が「地域連携の共通基盤となる地図情報の構築と活用」をテーマに、地域を結ぶ

多摩区3大学(本学・明治大学・日本女子大学)連携事業「川崎市教育委員会連携事業として1月23日、共同シンポジウム「地域の共有財産としての『地図』―未来へのロードマップ」が日本院博士課程に学ぶ張夏玉さん(韓国)、マーケティング学科2年次のタオワン・キティチャイさん(タイ)ら4人は、自本女子大学で開かれた。学校教育の現場で社会科教育や安全対策の面で「地図」の必要性が高まっている中、本学からは熊木文学部教授が「地域連携の共通基盤となる地図情報の構築と活用」をテーマに、地域を結ぶ

【3月31日付】唐鎌 直義経済学部教授(在職8年) 鈴木 宏法文学部准教授(在職39年9月) 新井 龍子経営学部教授(のりよし) 商学部教授

2月27日、79歳で死去。1975年から2001年まで在職。文学部長などを歴任。 小口 登良氏(おぐち のりよし) 商学部教授

(在職8年) 安川 通雄経営学部教授(在職23年) 津久井康之ネットワーク情報学部教授(在職16年)

(在職8年) 大島 良行氏(おおしま よしゆき) 名誉教授、元文学部教授、学校法人専修大学元理事・元評議員

2月19日、66歳で死去。1993年から在職。大学院商学研究科長などを歴任。主な担当はミクロ経済学。 丸山 貞雄氏(まるやま さだお) 学校法人専修大学元専務理事・元評議員・元顧問